

## 調査目的と調査方法

### 1 調査の目的

平成31年度に策定予定のなごや子ども条例第20条の規定による「子どもに関する総合計画」及び子ども・子育て支援法第61条の規定による「市町村子ども・子育て支援事業計画」策定の基礎資料とするため子育て家庭、子ども及び若者の意識・生活実態・ニーズ等を調査する。

### 2 調査対象

名古屋市内に居住する者のうち、次の年齢に該当する者等を住民基本台帳から無作為に抽出し、調査対象とした。

- ① 子育て家庭
  - ア) 0歳～5歳の子どもの属する世帯 12,000世帯
  - イ) 6歳～17歳の子どもの属する世帯 12,000世帯
- ② 子ども 10歳～17歳の子ども 8,000人  
①のイ)のうち、子どもが10歳以上の世帯について子どもも調査対象とした。
- ③ 若者 18歳～39歳 10,000人

### 3 質問項目

- ① 保護者用
  - (ア) 子どもの年齢が0歳～5歳の世帯  
フェイス項目16項目、設問項目99問と付問、自由記述項目1項目
  - (イ) 子どもの年齢が6歳～17歳の世帯  
フェイス項目16項目、設問項目60問と付問、自由記述項目1項目
- ② 子ども用 フェイス項目2項目、設問項目62問と付問、自由記述項目1項目
- ③ 若者用 フェイス項目4項目、設問項目72問と付問、自由記述項目1項目

### 4 調査方法

- ① 調査方法  
郵送で配布し、郵送で回収した。  
若者のうち9,000人については、WEBによるオンライン調査を実施した。
- ② 調査期間  
平成30年7月9日～7月30日
- ③ 回収状況  
調査対象数42,000に対して、9,702の有効回答が寄せられ、全体の回収率は23.1%である。  
また、就学前保護者の回収率は32.6%、就学後保護者の回収率は24.2%、子どもの回収率は18.5%、若者の回収率は14.0%であった。

区分	調査対象数	回収数	回収率 (%)
就学前保護者	12,000	3,915	32.6
就学後保護者	12,000	2,903	24.2
子ども	8,000	1,482	18.5
若者	10,000	1,402	14.0
合計	42,000	9,702	23.1

# 分析にあたって

## 1. 分析の種類を区分している記号

- ◇・・・「基本分析」（単純集計、属性区分別集計）
- ◎・・・「項目間のクロス」
- ・・・「指標化によるクロス」（回答を指標化してクロス）
- ・・・「子ども設問と保護者設問とのクロス」（就学後保護者調査票とのクロス）

## 2. 指標化による分析

分析するにあたり、以下の指標を設定している。

### <自己肯定指標> （子ども調査・若者調査）

「自分のことが好きか」「自分に自信があるか」「いろいろなことに挑戦できるか」の3つの質問の回答を肯定的な回答の順（例：好き→どちらかといえば好き→どちらかといえば嫌い→嫌い）に4点から1点を配点し、合計したもの。最高が12点、最低が3点となり、点数が高いほど自己肯定感が強い。

### <生活満足度指標> （子ども調査）

「今の生活に満足しているか」「今の生活が楽しいと思うか」の2つの質問の回答を肯定的な回答の順（例：満足→どちらかといえば満足→どちらかといえば不満足→不満足）に4点から1点を配点し、合計したもの。最高が8点、最低が2点となり、点数が高いほど生活満足度が高い。

### <勉強意識指標> （子ども調査）

「勉強が好きか」「勉強は大切だと思うか」「勉強は理解できるか」「勉強は将来役に立つと思うか」の4つの質問の回答を肯定的な回答の順（例：好き→どちらかといえば好き→どちらかといえば嫌い→嫌い）に4点から1点を配点し、合計したもの。最高が16点、最低が4点となり、点数が高いほど勉強に対する意識が高い。

### <行動指標> （子ども調査）

「次のことができるか」という12の質問（例「朝、自分でできる」）をできる順（だいたいできる→たまにできる→ほとんどできない）に3点から1点を配点し、合計したもの。最高が36点、最低が12点となり、点数が高い方が自分でできることが多い。

### <親子関係指標> （子ども調査）

母親、父親との関係を「よく言われる」=3、「たまに言われる」=2、「ほとんど言われない」=1として、管理的な関係（～しなさいと言われるなど）のポイントから支援的な関係（ほめてくれるなど）のポイントを引いたもの。点数が小さいほど支援的な関係が強い。

※両親が支援的とは、親子関係指標が4点以下（最も支援的な区分）に該当した子。

※両親と信頼関係があるとは、親との信頼関係に関する質問（例：お母さんはわたしの好きなことをよくわかっている）に肯定的な回答の順（そう思う→だいたいそう思う→あまりそう思わない→思わない）に4点から1点を配点し、合計した数値が父親は16点以上、母親は18点以上（最も信頼関係のある区分）に該当した子。